

防犯教本2

施設防犯1

基礎知識編



日本防犯診断士協会

目次

第一章施設防犯の基礎知識

第1節施設防犯0)概要	2
5つの分類の1 / 人が住む建物	3
5つの分類の2と3 / 人が働く建物 / 人が集まる建物	4
5つの分類の4と5 / 無人か無人に近い建物 / 複合型の建物	5
防犯力の構築5つのポイント / ほか	6
第2節施設防犯と3つの理論	
マーカス理論	8
ゾーンデフェンス理論	10
自力防犯理論	12
第3節 侵入犯罪者のリスク分析	
5つのタイプ	14
3つの動機とリスク	16
5つの手口	18
侵入口と侵入力法	20
補足資料1 / 治安悪化の元凶	22
第二章 施設防犯の要点（参考例、一般住宅）	23
第1節 無防備な日本の住居 / 家族の命も守れない	24
防犯対策のない住宅は危ない / 重要な対策の要点	26
防犯対策のない住宅は危ない	28
第2節窓の防犯	
窓からの侵入、5つの手口 / 狙われる7つの窓	一刃
窓の種類 / ガラスの種類	34
窓の強化法 / 室内側 / 外側 / ほか	38
第3節 ドアの防犯（玄関・勝手口など）	
ドアからの侵入2/2つの手口 / ほか	41
危ないドア / 玄関の強化 / ほか	44
第4節鍵と錠	
掘り込み式箱錠 / 面付け箱錠 / 鍵と錠の基礎知識 / ほか	48
危ない錠4種 / 錠を狙った手口6種 / ほか	54
第5節センサー機器	
各種センサーの種類 / 受動式赤外線センサー / ほか	63
受動式赤外線センサーの設圏の要点 / ほか	65
第6節外壁（面）の防犯	
注意箇所	69
具体的対策	71
第7節室内の防犯	
万一、室内に侵入されたら / 留守宅に侵入する15の手口	72
命を守る室内づくり1 / 侵入者警告装置	74
命を守る室内づくり2 / 侵入者警告装飾	76
侵入者通報システム / ほか	78
巻 末	81

第一章施設防犯の基礎知識

施設防犯とは、住宅や店舗などの建物や施設への犯罪者の侵入を抑止することをいう。（本講座では、建物とその敷地内を含めて建物 施設と表現している）自力防犯で最も基本的なテーマとしているのが、この「施設防犯」である。その理由はいくつかある。

- 1、建物や住居内、室内、部屋内は密室であり、人目のない危ない空間。
だから、自宅室内で一家全員が殺害されるなどの惨い被害が後を絶たない。
- 2、日本の一般的な住宅やマンション、アパートなど、人が住む建物のほとんどは防犯力がないか脆弱。
だから、深刻なダメージを受ける被害が多発している。
- 3、多くの国民や住民は、建物内や室内、部屋の中は安全だと思い込んでいる。
だから、暮らしの中に油断や隙があり、多くの女性や高齢者、子どもたちが被害を受けている。
- 4、建物内や室内、部屋の中で行なわれる犯罪はエスカレートする傾向が強い。
だから、殺人やレイプなどの深刻な被害を受けるケースが多発している。
- 5、建物内や自室内で性犯罪の被害をうけると、被害届けをださないケースが多い。
だから、1人の犯罪者が数十件の犯行を繰り返す事例が少なくない。
- 6、住居内や室内で、「少々の物音や叫び声、助けを求める声」をあげても、他人は介入しづらい。
だから、助けられない、助からないケースが多い。

これらの理由のほかにも、殺人、強盗、レイプなどは室内が多い。さらに、室内や部屋内で放火をされると焼死するケースが多い。建物内、室内、部屋内には犯罪企図者がターゲットにするものがある。さらに誰にも見られない、気づかれない。万一気づかれても誰も介入しない。だから、建物内、室内、部屋内は絶好の犯行現場になっている。

以上のような理由から、本人や家族あるいは関係者の生命や身体、財産を守れる建物 施設、住居づくり「施設防犯（侵入者犯罪者抑止法）」を、自力防犯の優先テーマとしている。

本卒では、施設防犯を構築するうえで不可欠な基礎知識について解説する。

2 第一章 施設防犯の基礎知識

第1節 / 施設防犯の概要

施設防犯の要点

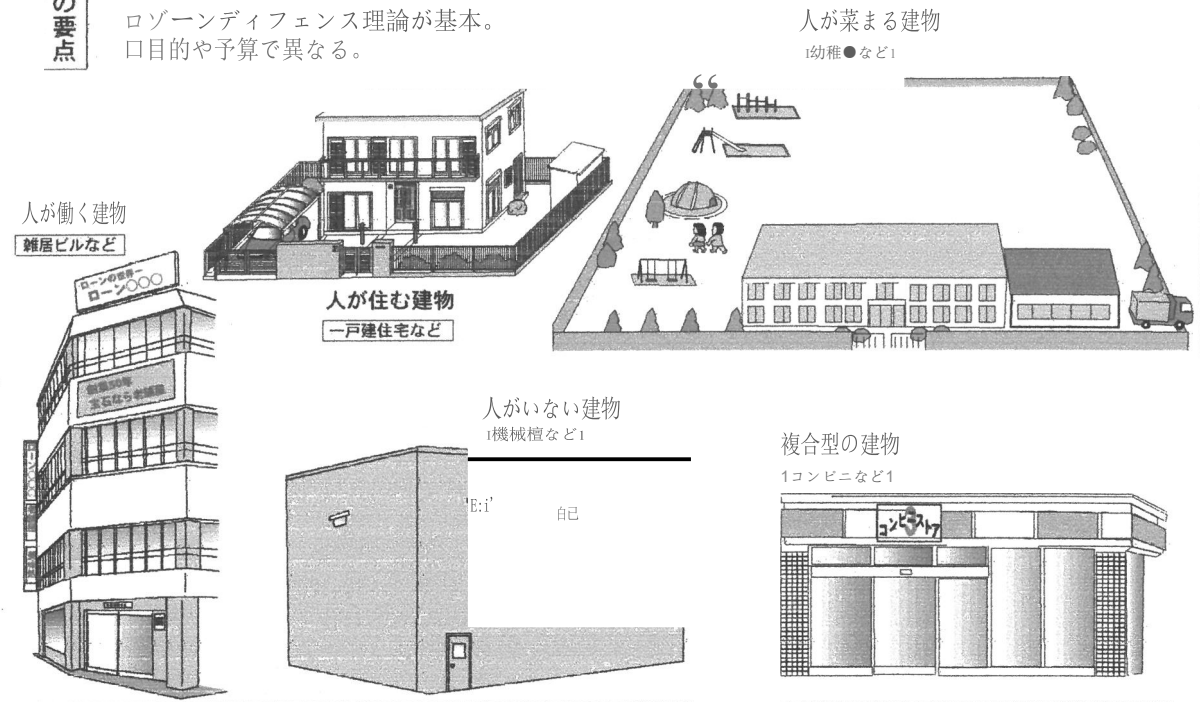
防犯力のない施設や建物は人や財産を守れない！

口室内は危ない空間、深刻な被害が多発。自力防犯の基本テーマの一つ。

口建造物の種類・構造 環境 状況によって異なる。

口ゾーンディフェンス理論が基本。

口目的や予算で異なる。



解説

施設防犯とは、住宅や店舗など多様な建物への犯罪者の侵入を抑止することをいう。

（本講座では、建物とその敷地内を含めて施設建物と表現している。）

本講座では、効果的な防犯対策を行うために、人と建物の関係を軸に5つに分類している。

- 1、人が住むための建物 / 一般住宅、マンション、アパート、寮、寄宿舍など
- 2、人が働く建物 / 工場 オフィスなど
- 3、人が集まる建物 / 学校、病院、児童館など
- 4、人がいない建物 / 倉庫、廃屋や廃工場など
- 5、複合型の建物 / 各種店舗、デパート、旅館、ホテルなど

さらに、規模の大小、存在する人間の多少、防犯の目的など各々に異なる特徴や条件が存在する。また、施設のリスク度や安全度、守るものの違いなどもある。

施設防犯が、単一的な防犯器具や設備だけで構築できるほど簡単ではないことがわかる。

要点1、建物 施設には、存在するリスクと発生するリスクがある。そのリスクの抽出と対策が重要なポイントになる。

要点2、建物 施設の防犯力は、3つの理論をもとに構築する。①自力防犯理論、②マーカス理論③ゾーンディフェンス理論。

要点3、建物や施設のリスクや目的、予算に対応した防犯力の構築が基本。

要点4、防犯対策の要点は、タイプ対策、手口対策、侵入口対策（①ドア対策、②窓対策）

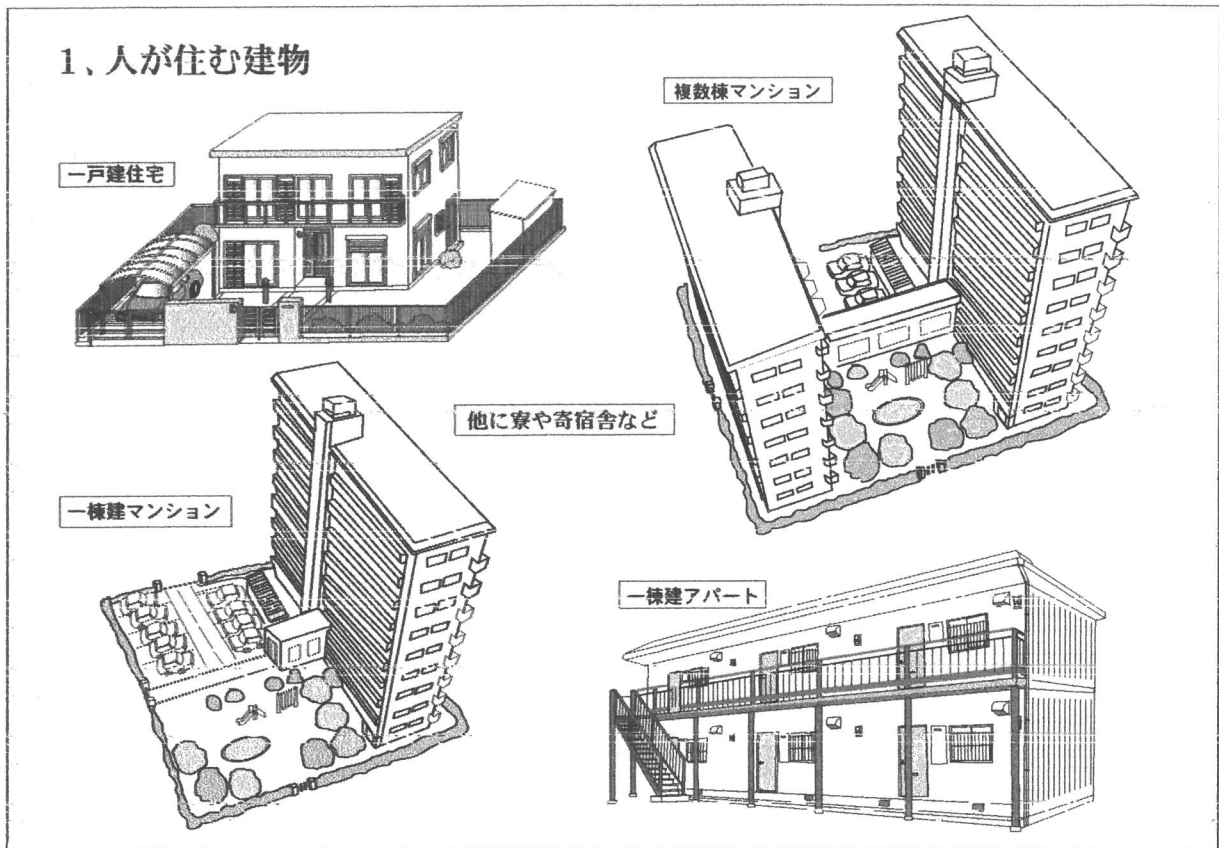
要点5、◇一．つの抑止力。◇一．段階の防犯力。◇二つの具体的対策。

要点6、◇防犯対策の手順(7段階)

要点7、一般住宅は防犯アセスメント作成（防犯力診断グラフ使用） / その他

以上が、施設防犯（侵入者抑止法）の要点である。（各詳細については、本書の各項目と「施設防犯各編」で解説）

5つの分類の1



1. 人が住む建物

人が住む建物の代表的なものが、一般住宅やマンション、アパートである。

人が住む建物には、2つのリスクが存在し、発生するリスクが4つある。

◇存在するリスク

- ①侵入犯罪に対する防犯力がないか脆弱。
- ②自分や家族、関係者の命を守れない。

◇発生するリスク

- ①金品狙いの侵入犯罪のリスク。
- ②性犯罪狙いの侵入犯罪リスク。
- ③怨恨やトラブルなど、家族や親族、知人や関係者などの面識者による犯罪のリスク。
- ④異常者による侵入犯罪のリスク。

人が住む建物・施設には、犯罪企図者がターゲットにするほとんどが存在する。だから、これらのリスクに対する防犯対策が必須となる。

だがマンションなどには「共有部」という自分の意思だけではどうにもできない場所や空間が存在する。

だからマンションなどの集合住宅には、必ず死角や盲点、油断や隙のある場所や箇所が存在する。集合住宅で女儿や女子、女性の性被害の多発が、このリスクの存在を示している。

住宅やマンション、アパートなど、人が住む建物のリスクが高いのには明確な理由がある。

「金品が必ずある（金品狙い）」

「女性が必ずいる（性犯罪狙い）」

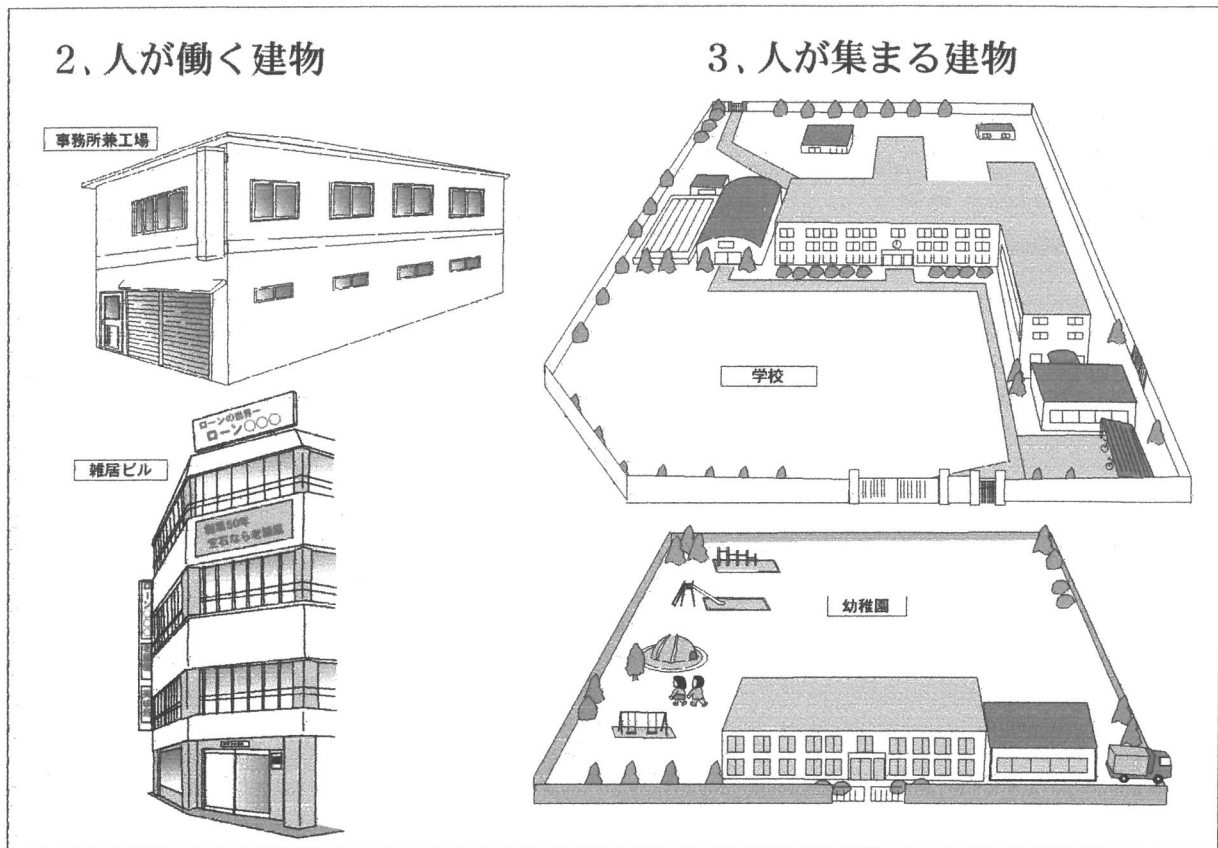
「高齢者や子どもなどの犯罪弱者がいる」

からだ。人が住む建物には、犯罪の構成要因となる「金」「性」「心の荒廃」に因する犯罪のターゲットが、必ずそこに存在する。さらに、いったん侵入できれば、多少の物音や悲鳴、叫び声がしても誰にも邪魔されない。絶好の犯行現場になるリスクな空間なのである。

Point 1 人の住む建物の防犯は、施設防犯の最優先テーマ。

※ 特にマンションやアパートには、個人ではできない対策箇所が存在する。そのリスクは大きくて高い。

5つの分類の2と3



2. 人が働く建物

人が働く建物は、各種の工場から企業ビル、オフィスなど多岐にわたり、さらに、家族などが数人で働く工場から、数十人、数百人、数千人規模のものまで多様である。

（自力防犯では、守衛や常駐警備員がいない建物を対象としている。）

人が働く建物のリスクには特徴がある。

- 1、金品狙いの侵入犯罪。
- 2、金銭トラブルによる面識者の犯罪。
- 3、従業員など内部の者による犯罪・侵入犯罪。

これらの小・中規模の建物の基本的な防犯対策のテーマは2つに絞られる。

- ・従業員や関係者が働く時間内の防犯
- ・終業後や祝祭日などの不在時の防犯

に分けられる。

また、使用者が所有者か非所有者かでも対策が異なる。非所有の場合は、占有部（窓と出入口口と室内の三箇所の防犯対策）に限定されるので全体の安全確保は難しくなる。

3. 人が集まる建物

幼稚園や学校、児童館や体育館、図書館など、人は集まるが、客商売ではないから「お金」には縁のない建物ということになる。

これらの建物の特徴は、犯罪弱者である子どもたちが多いことである。だから、子どもたちを守れる建物にしなければならない。

対策のテーマは多いが集約すると

- 1、環境的、物理的、人的／三つの防犯力
- 2、人的防犯力が重要（察知力、対応力、脱出力）
- 3、大人の数と子どもの数
- 4、トイレや物置、非常階段などの死角の管理能力や監視力
- 5、関係者が不在時の使用制限、対策など。

（①～⑤の詳細については別途、「一般住宅編」「学校防犯編」「各種店舗編」などの各テーマで解説）

Point 2 子どもや女性に関係する建物は、リスクの抽出が不可欠である。リスクがあれば防犯対策が必要になる。